

国際機関における地方創生をめぐる議論
OECD（経済協力開発機構）地域開発政策委員会日より
(PART II)

(23) 第6回「OECD・先進的市長会議」

2023年4月24日に開催された第33回「都市政策作業部会」では、来たる6月にベルギーで開かれる「ブリュッセル都市サミットー全地球的課題への都市からの答えー」(Brussels Urban Summit—Urban Answers to Global Challenges)」と、その一翼を担う「OECD・先進的市長会議 (OECD Champion Mayors for Inclusive Growth)」が議題に上った。

「ブリュッセル都市サミット」では、格差、気候変動、人口移動など都市をめぐる広範な全地球的課題に対する解決策を模索すべく、第14回「大都市圏世界会議 (Metropolis World Congress)」、「ヨーロッパ都市会議 (Eurocities conference)」年次会合と並んで第6回「OECD・先進的市長会議」が開催され、包摂的(Inclusive)な都市成長を第一線で推進する首長たちの声を届けることが予定されている。

「OECD・先進的市長会議」は世界の課題である格差や不平等を排し、誰一人取り残さない包摂的 (Inclusive) な都市の実現をめざし、2016年3月、OECDが呼びかけて発足した先進的な取り組みを進める首長の会議で、その後年1回定期会合を開いてきた。協賛団体にはフォード財団、ブルッキングス研究所、ブルームバーグ・フィランソロフィーズ、リンカーン都市政策研究所など著名な機関が名を連ねている。わが国からはこれまで、東京都、横浜市、福岡市、仙台市、富山市、大津市、つくば市、福島県広野町の首長が参加しており、特に東京都の小池百合子知事は同会議の運営委員会に当たる「ステアリング・グループ」のメンバーに加わっている。同会議にはこれまでニューヨーク、ロンドンなど約60都市の首長が参加しており、「ステアリング・グループ」は東京都のほか、パリ、ブリュッセル、グラスゴー、アイスランド・レイキャビク、スロバキア・ブラチスラバ、ポルトガル・ブラーガ、チリ・レンタの8都市の首長で構成されている。昨2022年9月、同会議の議長のバトンはアンヌ・イダルゴ (Anne Hidalgo) ・パリ市長からダガル・エガートソン (Dagur Eggertsson) ・レイキャビク市長に渡された。

第6回「OECD・先進的市長会議」は2023年6月13日、ベルギーのブリュッセルで開催される。今回は、新型コロナウイルスのパンデミックやロシアのウクライナ侵攻などにより脅かされている都市の「包摂的成長」のほか、地球温暖化に対応した住宅政策、デジタル化、民主主義への信頼の再構築、都市の強靱化 (Resilience) など、広範な議論が予定されている。